

大会準備委員会企画シンポジウムⅡ

震災の経験から考える VUCA 時代のこころの支援

企画・司会：高木 源（東北福祉大学）

話題提供：二本松直人（福島県立医科大学）

野口修司（香川大学）

柴田理瑛（東北福祉大学）

*一部、調整中

指定討論者：伊藤正哉（国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター）

<概要>

昨今の社会情勢は、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が高まっていることを感じさせる。東日本大震災の経験は、こころの支援の在り方を問われる機会でもあった。そして、多くの支援者が様々な立場から、困難な状況の中で支援に取り組んできた。このような経験は、震災という限られた状況のみならず、VUCA 時代におけるこころの支援の在り方に対しても示唆を与えるものだといえる。そこで、本シンポジウムでは、VUCA 時代に求められるこころの支援について、震災の経験から考えたい。

カウンセリング学会では、東日本大震災において学会の主導によって支援チームを形成し、実践を行った。このような経験を踏まえて、VUCA 時代のこころの支援について話題提供をいただく。また、震災において福島県では、避難区域が設定され、多くの方が家もコミュニティーも喪失する事態に直面した。そのような被災の当事者としての経験を踏まえて、被災者に対するインタビュー調査を行った結果から、VUCA 時代のこころの支援について話題提供をいただく。さらに、震災後の社会状況は支援者の支援を必要とする状況でもあった。支援者を支援することは、充実した支援を継続的に提供するために不可欠の要素だといえる。そこで、震災後の保育士および公務員を支援した経験から、VUCA 時代のこころの支援について話題提供をいただく。最後に、各シンポジストの話題提供を受けて、「VUCA 時代のこころの支援の在り方」について、指定討論を頂戴する。